

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794400248		
法人名	有限会社 さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ城東		
所在地	大阪市城東区今福南4-3-64		
自己評価作成日	平成30年7月1日	評価結果市町村受理日	平成30年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が今までの生活パターンを守りながら 本人らしい生活ができADLの維持ができるよう支援をしている。
 ご入居様が自分の居場所を作れるようにすることと 個々の入居者様同士の関係が持てるよう職員が働きかけをしている。
 日々の状況をカンファレンスにより全職員が共有し 個々のサービスの統一化をおこなっている。
 地域の行事にも参加し 交流をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設されて丁度1年が経過したばかりの若いグループホームである。大阪メトロ長堀鶴見緑地線の今福鶴見駅から徒歩10分の距離にあり、交通の便は良い。3ユニットであるが、現在は2ユニットで経営されており、職員の確保の目途がついた時点で残りの1ユニットの利用者を募集される予定である。
 ホームの介護方針として、自宅と同じように自分らしい暮らしを継続して頂けるよう個別支援を徹底している。例えば、少しでも散歩したい素振りを見せた利用者には必ず職員同行で外出し、夜間の排泄誘導についても、利用者が嫌がれば失禁覚悟で睡眠を優先している。ホーム近辺は、府営団地や下水処理場があり、やや緑が少なくそれを補う意味で、広い屋上を利用し、プランターで野菜を栽培したり、玄関入り口にきれいな花を植えたりして自然感を出し、ホームの雰囲気や和らげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	残された力で暮らす喜びを感じ、楽しくのんびりと笑顔の絶えない暮らしができるよう管理者と職員が日々の生活を見守り支援している。	当ホームの運営理念として、「1. 楽しく自由に、ありのままに。2. 残された力で暮らす喜び。3. 家庭的な愛にあふれた暮らし。4. 地域との交流と連携を図る」と定め、職員のよく目につく職員室や更衣室に貼り、家族のよく目につく相談室にも貼り、徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の行事の参加をしている。また外出等を行い地域住民とのコミュニケーションをとるようにしている。	開設してすぐに内覧会を催し、地域住民の理解を得て自治会にも加入し、町会の運動会に参加している。当ホームにて地域住民を招待し、介護施設・事業所の種類や内容の説明会をする予定もある。	まだ開設して1年が経過したばかりでこれからの課題でもあるが、地域資源(地域ボランティアの利用、ふれ合い喫茶への参加等)の活用がもっと望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて町会長様や地域包括センターの担当者様 ご家族様に日々の生活のお知らせをしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議において町会長様からの提案等をいただき地域の中の施設運営をするよう努める。	開催日を原則偶数月の第3週と決め、行政からは地域包括支援センター、地域からは町会長・副会長、そして利用者家族も出席して、ホームから入居者の状況やホームの行事を報告し、出席者からアドバイスをいただく等有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所等の書類提出時など施設状況や施設運営 ご利用様のことなどご相談させていただいている。	ケア困難事例等については、主に地域包括支援センター、区役所の介護関係の課や生活保護課とも連携し、色々な相談事についてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員の意識向上のため委員会設置を設置し 常に話し合い研修も随時行っている。また事故防止の観点から玄関の施錠はさせていただいているが外出等のご希望があれば随時対応させていただいている。	ホームで身体拘束廃止委員会を設置し、「身体的拘束等の適正化のための指針」も策定し、身体拘束をしないケアが実現できている。ホームの前は交通量の多い道路に面しており、玄関は安全上施錠せざるを得ないが、見守りケアに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員を含め虐待の研修を行い 常に注意しあえる環境を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの方 区役所の福祉担当の方などにご相談し 指導を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には契約書や重要事項説明書などの内容をご理解いただくまでご説明させていただき 不安や疑問点などにお答えさせていただいている。また入居後にも不安や疑問点があれば随時説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。運営推進会議等にてご意見をお聞かせいただいている。また面会に来られたご家族にもご意見をうかがっている。	利用者からは、常にどうして欲しい？ どちらを選ぶの？(自己決定・自己選択)を促し、普段の会話から聞き取る工夫をしている。家族からは、来訪時にケア記録を開示して、意見や要望等お聞いている。運営推進会議に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議 リーダー会議を通して職員の意見や提案を聞く機会を設け 実践できるよう助言を行っている。	ホーム自体、何でも言い易い雰囲気作りを心がけ、職員から意見や提案を聞いている。リーダーが各フロアの意見をまとめ、管理者に報告し相談している。又、管理者による個別面談をし、意見や要望を聞く機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時 職員の面談を行い状況の把握に努め やりがいが持てるように目標の提示を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修担当を決め個々の力量を把握し 不足部分の補佐を行いながら指導をしたり、研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他法人管理者と連絡会等を通じ相談させていただくこともある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前にご家族様 ご本人様のご要望などをお聞きし また医療関係者との連携を図り ご利用者様が安心して生活ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込書をお預かりするときにご家族の不安やご要望等を記入していただき ケアプラン作成時に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の段階でご要望 面談 ご本人様の状況を踏まえ できるだけご要望に沿ったサービスの提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	疑似家族の関係をもちながら ご利用者様個々に対応できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現在の状況をお伝えすることとご家族と外出する機会を持っていただくことをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	公園などに出かけたり スーパーに買いものに出かけることもある。ご入居前のご友人の面会もしていただいている。	開設して1年が経過し、友人・知人の訪問は減ってきているが、来訪時は楽しい時間を過ごしてもらっている。馴染みの場所としては、家族が外食に誘ってくれたり、墓参等がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者様間関係が持てるよう個々の状況を把握し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様のご意向があれば 契約終了のご家族様のご相談に応じることはできる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設内の生活の範囲内ではあるが自分らしい暮らし方をしていただけるよう努めている。	入居して現在の思いや意向を聞き出すためには、やはり本人をよく知ることが大切であると入居時にアンケートをとり、人生歴や生活環境その他を把握している。入居後には意向や提案、不満等を利用者・家族に聞き、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に ご家族様や関わりのあったケアマネやケースワーカーと連絡を取り 生活歴や既往歴について聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様の日々の生活の観察に努め記録を行い 状況を総合的に見ながら現状の把握と支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い ケアカンファレンスを定期的に行き職員間で個々の状況の把握に努め ケアプランに反映している。	本人本位のケアプランを立てるため、入居者の変化等を介護記録で把握し、職員アンケートを実施して、計画作成担当者を中心にカンファレンスを開いている。モニタリングやケアプランの変更や追加は特に期間を決めず随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンス以外 ご入居者様の状況に応じ随時ケアの取り組みを変更し対応している。また変更時にはご家族にも説明し個人の状況を理解していただくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の状況を含めご家族と連絡を取りながら 施設内でできる範囲内でニーズにこたえるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加しながら 外出時など声をかけていただけの関係を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は24時間のオンコール体制の契約を結び 状況の報告や状況に応じたの支持を受けている。	かかりつけ医については、本人や家族の意向を優先している。しかし、現在は殆どの利用者が24時間対応可能な協力医療機関の訪問診療を月2回受診している。他科(整形外科、眼科等)の受診は原則家族と連絡をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護師に相談ができ 医師との連携を図れるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者様の状況を管理者やケアマネ計画作成者で病院までお見舞いに伺い病院で看護師 医師などから病状や施設生活の注意点などをお聞きしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご意見をうかがってはおりますが重度化になった場合は ご利用者様とご家族と医療関係者を交え話し合いを行い方針を決めていく。	「重度化した場合の対応に関する指針」を入居時に説明し、その時が来て家族の要望とかかりつけ医の判断が一致すれば、ホームで看取りを実施する方針である。そのためには、既に職員研修も実施し、役割等決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には職員→管理者→看護師→医師と連携し報告を行い 適切な指示のもと職員に対応ができるような体制にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	適切な訓練を定期的に行い 近隣の災害訓練にも参加している。	非常災害については、地震、風水害および火災を想定した総合的な避難マニュアルは策定されている。年2回(消防署立ち合い、夜間想定)の避難訓練は実施している。しかし、近隣住民の参加は得られていない。	運営推進会議に町会長や副会長が出席されており、その方々の力を借りて強く近隣住民に働きかけてもらったり、ホームのイベントに近隣の方々を招待したりしてより深くお付き合いする工夫も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居様の心身の状況に合わせ 受け入れ・認めて適時の声掛けを行うようにしている。	利用者に対しては、常に尊厳の心を持ち、プライドやプライバシーは人間として最後まで残る感情と捉え利用者に投げかける言葉には大きな声やあからさまな誘導は避けるなど、スタッフ同士が注意し合える環境がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に常に意思確認を行うようにし 希望を確認し意思決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の入居者様の状況を把握し 無理のない支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時は個人の好みをお聞きし服を選んでいただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者での調理となるが 盛付や片付けなど 職員と一緒にいただいている。	食材は業者からのクックチルを利用者と職員が温めたり刻んだりして提供している。月に1回は食事レクの日を作り買い物から調理まで共に行っている。行事食やお誕生会も楽しんでいる。職員は一緒に食べたり飲んだりすることを介助の一環として仕事として捉え楽しい雰囲気の中での食事風景がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者からの指示の食事を提供することでバランスはとれているが 時にご入居者様のお好みの食事を買い物から下ごしらえ等もしていただくこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科の往診があり口腔内の異常の早期発見・口腔ケアの個々に対する指導を受け実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄パターンを記録し 見守り・誘導を行っている。	排泄チェック表や利用者固有のサインをも見逃さず排泄パターンを把握している。利用者のほとんどが自立の方で見守りながらの排泄を支援している。夜間は一応声掛けはするが、嫌がる利用者に対しては、ゆっくり眠ってもらう事を優先に考え日中を安定して過ごしてもらえることを重視している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様個々の排泄パターンをつかみ 食事量の把握 水分量の把握を行い自然な排泄ができるよう日々の生活に 運動などを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様当日の個々の状況に合わせて お気持ちに沿うようにタイミングを合わせ入浴していただいている。	入浴は週3回1日おきを目安にして入浴中には利用者の本音が聞ける良い機会として捉え、又身体チェックをきっちり見て、赤み、むくみ、打ち身等は看護師さんに連絡している。入浴拒否の人にはバラやオレンジなどの入浴剤や季節の菖蒲湯など工夫しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めず個々の生活に合わせようとしている。昼夜逆転傾向になりがちな入居者様は日中の生活の見直しを行い無理なく生活リズムが取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には記録を行い全職員が把握できるようにしていることと服薬のチェック表を記入している。また薬に変更があった場合については看護師・医師・薬剤師に服薬後の状況を報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活を意識しフロアの掃除や雑巾がけ等を職員と一緒にやり日々のリズムをつけることと個々に仕事の役割を入居者様同士で決められている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当施設の送迎にて花見や買い物などをする他近所のスーパーにも買い物に出たり公園などに散歩するなどの支援をしている。	部屋に閉じこもらないよう歩行訓練を兼ねて、買い物コースや季節を感じてもらえるコースなどを考えて、利用者がなるべく戸外へ出る工夫をしている。お弁当を持参し近くの公園へ出かけたり、車で花見や紅葉狩りなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方については多少のお小遣いをお渡しして金銭管理や買い物などの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が過ごされるフロアには電話があり電話の使用ができるようにしている。ご家族様の電話をつないでお話していただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が過ごされるフロアや廊下 手すりなどを入居者様と職員と一緒に掃除をすることで連帯感が築けるように支援をし日中はカーテンを開け施設内に光を取り入れたり 季節の花を飾ったりしている。	リビング兼食堂は広くて明るく、利用者は職員と共に毎日掃除し、生活の場としての意識が高く清潔感がある。長椅子では気の合う利用者同士がおしゃべり出来る場となり、屋上では野菜を育て利用者が順番に水やりを行ったり、日向ぼっこをしたりして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの椅子には居場所づくりのため入居者様の好みの背もたれカバーをしていますが 席等の配慮もし友人関係ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご自宅で使用されていた家具類や思い出の品などを持ち込んでいただき安心して過ごしていただけるようにしている。	居室にはベッド、クーラー、衣装ケースが備えられ、利用者は使い慣れた日用品や家具を持ち込み、テレビ、仏壇等を思い思いに持ち込んで居心地良く安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に声掛けを行い意思確認しながらできることを見極め状態を確認しながら支援をしている。		